

## 樂府群玉（天一閣抄本）文字整理方針

天一閣抄本『類聚名賢樂府群玉』の再現テキストを作成した。再現テキストとは、原本のレイアウト情報を備えた翻字テキストのことである。匡郭等の図形や元の縮尺にはこだわらず、本文、校語、蔵書印などの文字情報を中心にして直感的にイメージしやすいように作っている。将来、この本の影印本が出版されるときまでの代用をつとめることを目的にしている。

底本には上海図書館所蔵のスキャン画像（請求記号 829605。原本の請求記号も同じ）を用いた。天一閣抄本は天一閣旧蔵の明抄本で、心井盒抄本の底本にもなっている。

再現テキスト作成に当たり、次のような方針で文字を整理した。

### （1～5 再現テキストすべてに共通）

1. 判読できなかった字は□，原本の墨丁は■，もともと書かれていた四角形は口を用いる。
2. 俗字は正字に改める。敦煌文献，戯曲・小説等の校勘作業では常に俗字処理の問題がつきまとい，代表的な考え方には，王重民『敦煌變文集』（人民文学出版社，1957）のように俗字の字形を残す方法と，黄征・張涌泉『敦煌變文校注』（中華書局，1997）のように正字に改める方法，そして鄭騫『校訂元刊雜劇三十種』（世界書局，1962）のように無理に植字・校勘せず記号（×）で代用する方法の3種類があるだろう。元代散曲テキストにおいても草かんむりと竹かんむりが混用されて「𠂔」のような形で書かれるなど，俗字は多様で活字での表現が困難なため，正字に改める方法を採用した。字形だけではどの字か特定できない場合もあり，そのときは排印本等の資料を参考にしながら文意に応じて改めている。例外的に俗字を残した場合は，以下の6，7に記載してある。俗字の範疇については張涌泉『漢語俗字研究』増訂本（商務印書館，2010）を参考にした。
3. 字形がくずれて字をなしていないときは，俗字の場合と同様，排印本等の資料を参考にしながら文意に応じて改める。
4. 字形が明らかで字をなしているものは原則そのままにする。例えば明らかな誤字，音の近い当て字であっても変更していない。
5. 次に示す字形はカッコの左側を標準形とする。カッコ内は多くが日本で旧字体と認識されている字形だが，常用漢字とそれ以外（表外漢字）で一貫性を欠き，一つの字形に統一できないので採用しなかった。標準形の選択においては，コンピューターの文字コードと，再現テキスト作成に使用したフォントとを精査することで，文字体系全体のなかで字形の一貫性を確保した。

|      |      |       |       |      |       |      |      |      |
|------|------|-------|-------|------|-------|------|------|------|
| 奥(奧) | 并(并) | 並(竝並) | 查(查)  | 处(処) | 兑(兌)  | 骨(骨) | 龜(龜) | 袞(袞) |
| 戸(戶) | 黄(黃) | 即(卽卽) | 既(既既) | 兼(兼) | 教(教)  | 晋(晉) | 聚(聚) | 絶(絶) |
| 頼(頼) | 另(另) | 吕(呂)  | 免(免)  | 内(内) | 普(普普) | 青(青) | 弱(弱) | 章(章) |
| 衛(衛) | 卧(臥) | 虚(虛)  | 要(要)  | 益(益) | 俞(俞)  | 羽(羽) | 蚤(蚤) | 者(者) |
| 真(眞) | 直(直) | 衆(眾)  | 朮(朮)  | 兹(茲) |       |      |      |      |
| 之(之) | 开(開) | 爻(爻)  | 示(示)  | 发(發) | 产(産)  | 林(林) | 臣(臣) | 高(高) |
| 食(食) | 显(顯) | 虽(雖)  |       |      |       |      |      |      |

(6~9 この再現テキストに固有の整理状況)

6. 次の文字は同義で音の近い通用関係にあり、この再現テキストでは統一せずそのままの字を残した。整理の範囲は本文など当初からあった部分とし、後人が付加した序跋・校語等は含めていない。

|    |    |     |    |    |    |     |    |     |     |
|----|----|-----|----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 捱捱 | 庵菴 | 盃杯  | 鬢髻 | 冰冰 | 並并 | 彩綵  | 採采 | 沉沉  | 喫吃  |
| 癡痴 | 船舩 | 窓窓窓 | 葱葱 | 堤隄 | 第弟 | 吊弔  | 聞聞 | 峩峨  | 鶯鵝  |
| 翻翻 | 峯峰 | 歌哥  | 鼓鼓 | 挂掛 | 怪恠 | 管筧  | 館館 | 回迴  | 雞鷄  |
| 跡迹 | 髻髻 | 牋箋  | 健健 | 節節 | 逕徑 | 淨淨  | 虧虧 | 闊濶濶 | 臘臘臘 |
| 泪淚 | 梨梨 | 璃璠  | 里裏 | 怜憐 | 凉涼 | 梁梁  | 梁梁 | 隣鄰  | 莽莽  |
| 滅滅 | 幙幕 | 那那  | 撚捻 | 寧寧 | 煖暖 | 佩珮  | 憑凭 | 魄魄  | 婁婁  |
| 牆牆 | 驅駟 | 群羣  | 染染 | 遶繞 | 葢蔭 | 箬箬  | 晒曬 | 梳梳  | 笋筍  |
| 蓑蓑 | 它他 | 塌塌  | 嘆歎 | 朶桃 | 條條 | 迤拖  | 駝駝 | 翫玩  | 瓮甕  |
| 汗汚 | 誤悞 | 絃弦  | 銜啣 | 蕭肖 | 螭蟹 | 曾胸育 | 修脩 | 綉繡  | 薰熏  |
| 烟煙 | 胭臙 | 崑岩  | 野埜 | 映映 | 遊游 | 鬱鬱  | 緣嫁 | 願愿  | 韻勻  |
| 咱喲 | 暫暫 | 着著  | 鍾鐘 | 揔揔 | 甯甯 |     |    |     |     |

7. 次の文字の多くは他の散曲テキストでは通用関係にある字が存在するが、この本では1種類の字だけ使われている。他の散曲テキストとの比較ができるよう、ここに列挙しておく。整理の範囲は6と同様、当初からあった部分に限定している。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 碍 | 鰲 | 灞 | 柏 | 榜 | 鞭 | 遍 | 飡 | 慙 | 草 | 茶 | 撐 | 頰 | 翅 | 酬 | 讎 | 雛 | 床 | 甕 | 鷓 |
| 匆 | 璫 | 驄 | 龕 | 退 | 嵯 | 荅 | 蒂 | 雕 | 疊 | 鼎 | 葵 | 瀆 | 妬 | 朶 | 趨 | 施 | 馱 | 萼 | 尔 |
| 槩 | 幹 | 缸 | 臯 | 閣 | 箇 | 耕 | 鈎 | 歸 | 畏 | 鶴 | 喂 | 鴻 | 後 | 歡 | 篁 | 魂 | 飢 | 壘 | 羈 |
| 羈 | 減 | 剪 | 鑑 | 堦 | 劫 | 潔 | 粳 | 肯 | 欵 | 况 | 愧 | 蠟 | 懶 | 藜 | 奩 | 粮 | 鄰 | 凌 | 畧 |
| 猫 | 麼 | 梅 | 縻 | 麪 | 命 | 模 | 寞 | 拿 | 妳 | 你 | 旒 | 裊 | 穠 | 派 | 旃 | 毗 | 拚 | 屏 | 瓶 |
| 婆 | 撲 | 鋪 | 栖 | 凄 | 碁 | 寢 | 榮 | 秋 | 軀 | 覩 | 吠 | 缺 | 裙 | 冉 | 洒 | 颯 | 腮 | 澁 | 煞 |
| 甚 | 昇 | 勢 | 疎 | 疎 | 綵 | 梨 | 絲 | 蘇 | 沂 | 算 | 殮 | 鎖 | 擡 | 壇 | 汀 | 同 | 茶 | 塗 | 椀 |
| 幃 | 無 | 戲 | 繫 | 詭 | 閑 | 賢 | 羨 | 簫 | 效 | 笑 | 劬 | 欣 | 豐 | 壻 | 鴈 | 摩 | 艷 | 灑 | 驪 |
| 醫 | 禱 | 詠 | 餘 | 輿 | 寃 | 雲 | 葬 | 皂 | 折 | 浙 | 卮 | 筓 | 庄 | 姿 | 踪 |   |   |   |   |

鴛鴦

8. 次の右側の文字は字形を変更して左側のように統一した。

|     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 燈←灯 | 個←个 | 棄←弃 | 稻←稻 | 滔←滔 | 韜←韜 | 昏←昏 | 諂←諂 |
| 掐←掐 | 陷←陷 | 燄←燄 |     |     |     |     |     |

9. 文字の修飾（色など）

黒色： この本の成立当初の字，後人の序跋の字

青色： 藍筆の校語，羅振常序で追加された字。成立当初の字の上に重ねて書かれたものも，そのとおりに重ねて再現した（第1葉b5など）

赤色： 蔵書印，朱筆の校語。重ねて書かれたものは青色と同じように処理した（第26葉b5など）

10. その他

- ・ 羅振常序の最初と最後の行にある蔵書印は判読できなかったので，輪郭に沿って臨模した。
- ・ この本には第25葉a，第25葉b，第38葉bの上に書付けがはさまれている。再現テキストではまとめて巻末に置いた。

(改版履歷)

01 2016. 3. 30